

被爆体験談を書かれた方（3名）のコメント

1 当時 8 か月の女性（川島^{かわしま} 智恵子^{ちえこ} 68 歳 広島市在住）

- ◎ 現在、広島平和記念資料館ピースボランティアとして、来館者の方に被爆の実相を伝えている。資料館の展示物をはじめ、時には他の方や自分の体験談などを交えながら説明することで、来館者に被爆による悲惨な実態をよく分かっていただけていると感じる。
- ◎ 今年の被爆体験談の募集テーマは「心身の傷や差別、偏見に苦しみながら、広島復興を支えてきた被爆者の姿」であり、被爆から 20 年以上経過して差別を受けた私の体験が関係すると思い応募した。
- ◎ 福島でも子どもたちをはじめ多くの方が放射線の影響で苦しんでおり、将来自分と同じ目にあわなければと願っている。

2 当時 16 歳の女性（上野^{うえの} 良子^{よしこ} 84 歳 宮崎県高鍋町在住）

- ◎ 現在、宮崎県内を中心に、被爆の体験を語り継ぐ活動を行っている。悲惨でみじめな経験を話すのはつらいことだが、若い人に自分のような経験を絶対にさせてはならないと考え、体の続く限り、続けていきたいと思う。
- ◎ 被爆によって傷を受け、後遺症に悩まされ、時には偏見や差別に苦しみながら生きてきた。自分の体験談が平和宣言に載るに当たり、改めて原爆による惨禍が再び起きることのないよう、切に願っている。

3 当時 14 歳の男性（硯谷^{すずりや} 文昭^{ふみあき} 82 歳 山口県周南市在住）

- ◎ 被爆によって現在でも後遺症に悩まされており、特に足の痛みに苦しみながら生活している。
- ◎ 原爆の悲惨さを伝えたいという思いで、体験談を執筆した。こんなつらい思いは私だけで終わらせない。再び将来の世代に味わわせてはならないと強く感じている。

（敬称略、平和宣言の記載順）

※このほか、「被爆体験に関する懇談会」のメンバーである田邊雅章氏から提出された被爆体験談 2 点を宣言文の冒頭に引用した。